資料４

苫小牧東部地域の優位性について

・「自然・交通・輸送条件」「技術・人材・地域資源」「機能・施設の誘導に関するインセンティブ等」の各分野・各項目における苫東地域の現状や動向から、有する優位性や特長等について整理すると以下のとおりである。

苫東地域の優位性等

分　野		項　目	優位性、特長　等
自然・交通・輸送条件	自然	地理的位置	・北方圏、アジア太平洋地域の交通結節点に位置。 ・都市機能・産業機能が集積する道央圏に位置し、苫小牧港、新千歳空港、道央自動車道等、海・空・陸の優れた交通アクセスを有する。
		気象	・夏は８月の平均気温が 20℃と、道内でも涼しく過ごしやすい。 ・降水量は、本州の様な梅雨はなく年間を通して比較的少ない。 ・降雪量は、札幌の 1/3 以下と道内でも極めて少ない。 ・風速は年間を通じて安定、風向は、９月から５月にかけて主に北風、６月から８月までは南東風が卓越。 ・日射は年間を通じて安定。
		地形・地質	・陸上部周辺は広大な勇払原野で、海岸部は典型的な弓形状を形成。 ・市街地北西には、世界でも珍しい溶岩円頂丘がある樽前山や、カルデラ湖の支笏湖がある。 ・南に太平洋を、西（※苫東地域から見て）にはわが国初の野鳥の聖域「サンクチュアリ」やラムサール条約登録湿地に指定されたウトナイ湖を有する勇払原野がある。 ・地形は標高 2～5mの低平地と 20～30mの台地に区分される。
	交通 輸送 （物流）	航空	・苫東は、新千歳空港から、車で約 20 分に位置。 ・新千歳空港は、国内 28 路線、国際 16 路線（H30.2 現在）を有し、年間乗降客数は国内第５位（H28）。 ・近年、国際線ターミナルの整備（H22）、国内線ターミナルの増築（H23）が行われ、主要都市を結ぶ路線が年々増加、苫東地域と本州や海外とのアクセスが一層向上。 ・国内線乗降客数は年間 1,873 万人（H28）、羽田空港に次ぐ国内２番目の乗降客数を誇る。 ・国際線は 16 路線が就航しており（H30.2 現在）、利用客数は堅調な増加基調にあり、H27 年には 200 万人を突破し、直近の H28 年には 258 万人となった。 ・平成 28 年の国内向け取扱貨物量は東京国際（羽田）、那覇に次いで第３位であり、人流の増加のみならず、物流の増加も期待される。
		海上	・フェリー航路は、西港区からは八戸、仙台、大洗、名古屋、東港区からは秋田、新潟、敦賀に就航。 ・苫小牧港は、北海道の港湾貨物の約 50%を取り扱い。 ・西港区は全国の主要港と定期航路が運航。東港区は９万トン級の大型船が就航、北米・東南アジアへの国際コンテナ船定期航路も開設。 ・就航しているフェリーやＲＯＲＯ船・内航コンテナ船は、週に 100 便を超え、中長距離の内貿定期・定航船の運航便数としては全国一位。 ・内貿取扱貨物量は、2001 年（平成 13 年）から、16 年連続全国一位。 ・外航路線としては、韓国や中国との路線が多数を占める。

			・道内で唯一北米コンテナ航路が就航している東港区の苫小牧国際コンテナターミナルは、冷凍魚等の水産品、生活物資や工業品等、年間およそ 20 万ＴＥＵのコンテナを取り扱う。 ・平成 23 年に延長 240m 水深 12m の耐震強化岸壁が完成、24 年にはパナマックス（13 列）対応のガントリークレーン 2 基、オーバーパナマックス（16 列）対応のガントリークレーン 1 基が整備される等、施設や機能の充実が進展。 ・今後は東港区の広大な用地を活用し、東アジア経済圏とのコンテナ航路ネットワークの充実を図ること等により、国際総合物流ターミナルゾーンの形成を図り、北海道の物流及び産業の拠点となることが目指されている。 ・苫小牧港は北極海航路活用におけるアジア側の玄関口、北米航路との中継点として地理的優位性を有している。
		道路網	・北海道縦貫自動車道苫小牧東ＩＣまで約 8km、札幌まで約 60km・60 分。新千歳空港までは約 20 分で連絡。 ・苫小牧東ＩＣから日高方面へ通じる高規格幹線道路（日高自動車道）が横断、インターチェンジが当地域内に 3 ヵ所設置されており、苫小牧は国道 36 号・234 号・235 号・276 号の幹線道路が縦横に走り道内各地域とのアクセスが容易。
		鉄道	・ＪＲ苫小牧駅は、苫東地域から西へ 10km に位置。 ・室蘭本線、千歳線、日高本線が合流。 ・苫小牧市内にＪＲ貨物駅があり、コンテナ貨物やＬＮＧ（天然ガス）輸送の拠点になっており、北海道内の主要都市はもとより、青函トンネルを利用し本州との鉄道輸送が可能。
技術・人材・地域資源	技術	主な産業	・苫小牧市は、全国や道内他都市と比べ、第 2 次産業とくに製造業のウェイトが高い。 製造品出荷額は 1 兆 4,761 億円を超え、道内最大で、道内の約 23%を占める（平成 28 年）。
		産業集積	・自動車関連、エネルギー関連、リサイクル関連の企業、また近年は植物工場等、食品関連産業等、幅広い分野の企業の立地・操業が進展。
		学術・研究集積	・市内に苫小牧駒沢大学、苫小牧工業高等専門学校、苫小牧工業高等学校等が、近隣には室蘭工業大学、千歳科学技術大学等の理工学部を持つ大学があり、教育機関が充実。 ・公設試は、苫小牧市テクノセンターや道央産業振興財団が立地、研究開発支援や技術指導、人材育成、産学官交流事業等を展開。
	人材	新規等の卒業者	・苫小牧市を含む道央圏には教育機関が集中し、特に理工系学部が充実し、人材採用環境は良好。
		技能者	・苫小牧市の高等学校卒業者の就職率は 36.6%で、全道 23.7%、札幌市 10.7%よりも 13～25 ポイント高い。 ・高等学校卒業後就業者の産業別就職者数は、苫小牧市は製造業が 34.0%と最も多く、全道 19.1%や札幌市 14.9%より高い割合（いずれも平成 28 年度）。
		従業員の 雇用状況	・H28 年度の有効求人倍率は、1.00 で全道 1.04 を下回る。 ・しかし、H29 年度になり、苫小牧の有効求人倍率は改善傾向にあり、直近の H30.1 には 1.30 と、全道 1.16、札幌市 1.16 を上回っている。(反面人材確保が懸念される) ・H28 年度の労働力調査（期間：H27.10～H28.9）では、回答企業のうち市内の 371 事業所（全体の 66.2%）で正規採用が見られ、産業別・規模別でも多様な正規雇用がなされている。 ・上記調査によると、市内のパート従業員の平均時給は 939 円（建設業 1,019 円、製造業 942 円等）、北海道の最低賃金 810 円（H29.10 改定）を上回る。
	地域資源	廃棄物等	・苫東厚真発電所から、年間約 40 万トンの石炭灰が発生し、土木、建築、農業の分野での利用拡大が進展。
		その他再生可能	【太陽光発電】 ・H27 年から H28 年にかけて、(同)苫東安平ソーラーパーク、苫小

		エネルギー	牧ソーラーエナジー㈱が太陽光発電所を建設・稼働するなど、大規模な太陽光発電所が多数立地。 ・そのほか、太陽光発電所が多数立地。なかでも H27 年に運転を開始したソフトバンク苫東安平ソーラーパークは敷地面積約 162ha、出力規模約 11 万 1,000kW で一般家庭の年間電力消費量約 3 万世帯分の電力供給が可能な北海道最大級規模の太陽光発電所。 【木質バイオマス】 ・㈱Ｊファームにおいてバイオマスボイラ設備が建設され、H27 年に稼働開始。国内で初めて木質チップ燃料による熱と CO_2 の温室栽培利用が可能となった。 【天然ガス高度利用】 ・勇払原野に国内最大級の天然ガス田を擁し、これスを利用したコージェネレーションや燃料電池による公共施設、商業施設、住宅等への電源・熱源の供給、バスや公用車等への天然ガス自動車導入等、高度利用の可能性を有している。
立地インセンティブ等	立地優遇措置	国	・地域未来投資促進進法に基づく支援措置の活用が可能。 ・地域雇用開発助成金（厚生労働省）の活用が可能。
		道	・北海道産業振興条例施行規則に基づく助成制度の活用が可能。 （参考）同種の補助金・助成金の限度額 北海道 20 億円、青森県 20 億円、新潟県 50 億円、福岡県 10 億円
		苫小牧市等	・苫小牧市企業立地振興条例に基づく優遇措置の活用が可能。 ・厚真町技術産業等の誘致に関する条例に基づく優遇措置の活用が可能。 ・安平町企業立地促進条例に基づく優遇措置の活用が可能。
産業基盤	用地	苫小牧東部地区（臨空地域）	・用途：工業地域、工業専用地域。 ・建築規制：建ぺい率 60%、容積率 200%。 ・新千歳空港から車で約 20 分。自動車関連産業をはじめ、メガソーラー等のエネルギー関連産業、製造業、食関連産業、物流関連産業、リサイクル関連産業等の企業立地が進展。
		苫小牧東部地区（臨海地域）	・用途：工業専用地域。 ・建築規制：建ぺい率 60%、容積率 200%。 ・日高自動車道、国道 235 号、道道上厚真苫小牧線に囲まれた地区に、自動車関連産業と研究施設が立地。 ・臨海臨港地区は苫小牧国際コンテナターミナルに隣接し、国内外の物流の拠点となっている他、苫東厚真発電所が立地。 ・臨海東地区には石油備蓄基地が立地。
	用水	上水道	・苫小牧市、厚真町及び安平町から給水。 ・苫小牧市の水は樽前山麓を源流とし、厚生労働省「おいしい水研究会」から水道水のおいしい全国の 32 都市に選定されている。
		工業用水	■苫小牧地区工業用水道第一施設 ・延長約 24km の配水管により、日量 100,000 ㎥の工業用水の供給が可能。 ■苫小牧地区工業用水道第二施設 ・延長約 42km の配水管により、日量 100,000 ㎥の工業用水の供給が可能。
		排水	・雨水・汚水分流式。 ・工場排水は、当面、立地企業による自家処理後汚水管へ放流。
	ｴﾈﾙｷﾞｰ	電力	・北電苫東厚真発電所及びサニックス廃プラスチック専焼発電所が立地。 ・そのほか、太陽光発電所が多数立地。ただし、これらは固定価格買取制度で電力を売却している。 ・大型蓄電システム緊急実証事業（2013～2018 経済産業省）として、北電南早来変電所にレドックスフロー電池を設置。

		天然ガス	・H8 年に生産を開始した勇払油ガス田のガスを利用した国内初の天然ガス液化施設（勇払ＬＮＧプラント）を建設。 ・H15 年から旭川市の都市ガス事業者向けにＬＮＧサテライト供給を開始。H19 年には第 2 液化系列も完成、帯広市、岩見沢市、釧路市、北見市、室蘭市の都市ガス事業者向けにＬＮＧサテライト供給を展開。 ・地域内にガバナーステーションを設置。
	CCS	ＣＣＳ	・H24 年、苫小牧で日本初の本格的なＣＣＳ実証プロジェクトが開始。 ・温暖化対策技術であるＣＣＳ実証に苫小牧が選定された理由は、二酸化炭素の貯留に適した地層やその地層に関するデータが存在すること、近隣に二酸化炭素の大規模な排出源(工場・発電所等)が存在すること等を満足したため。 ・苫東地域には観測井が設置されている。
	緑地	緑地	・苫東開発面積 10,700ha の約 3 割、約 3,200ha が緑地。工場立地法の工業団地等の特例により、立地企業の緑地確保の緩和が可能。 ・苫東地域には多種類の広葉樹・針葉樹が広く分布し、豊かな川の流れや多くの湖沼と相俟って緑美しい自然を形成。 ・これらの緑地は、緩衝、防災、自然・生活環境の保全に役立ち、地域内立地企業の従業員や市民のレクリエーション、憩いの場として利用されている。